

令和6年 第1回全員協議会会議録

令和6年1月24日 議員控室

○事 件

町長報告事項

- (1) 北海道新幹線並行在来線函館線（函館・長万部間）における、将来需要予測・収支予測調査の精査について（政策推進課）
- (2) 八雲町における今後の取り組みについて（政策推進課）

○出席議員（12名）

議長	千 葉 隆 君	副議長	黒 島 竹 満 君
	赤 井 睦 美 君		佐 藤 智 子 君
	横 田 喜世志 君		大久保 建 一 君
	関 口 正 博 君		宮 本 雅 晴 君
	倉 地 清 子 君		三 澤 公 雄 君
	斎 藤 實 君		能登谷 正 人 君

○欠席議員（2名）

牧 野 仁 君	安 藤 辰 行 君
---------	-----------

○出席説明員（8名）

町長	岩 村 克 詔 君	副町長	成 田 耕 治 君
総務課長	竹 内 友 身 君	財務課長	川 崎 芳 則 君
政策推進課長	川 口 拓 也 君	政策推進課長補佐	宮 下 洋 平 君
新幹線・公共交通係長	長谷川 佳 洋 君	新幹線・公共交通係主任	岡 島 孝 明 君

○出席事務局職員

事務局長	三 澤 聡 君	事務局次長	成 田 真 介 君
庶務係長	菊 地 恵梨花 君		

◎ 開会・議長挨拶

○議長（千葉 隆君） それでは臨時会に引き続いて、全員協議会を開催いたします。
議長挨拶は割愛します。

◎ 町長報告事項

○議長（千葉 隆君） それでは第1回全員協議会を開催いたします。

挨拶は割愛いたしまして、早速、町長報告事項から入っていききたいと思います。

（1）北海道新幹線並行在来線函館線における、将来需要予測・収支予測調査の精査についてをお願いいたします。

○政策推進課長（川口拓也君） 議長、政策推進課長。

○議長（千葉 隆君） 政策推進課長。

○政策推進課長（川口拓也君） 議員の皆様には大変お忙しい中、お時間をいただきありがとうございます。

本日は、去る12月27日、渡島の鉄道沿線の市・町の首長が集まり、開催されました、並行在来線対策協議会渡島ブロック会議での内容等について、ご報告をさせていただきます。

なお、資料につきましては事前配付させていただいていたことから、本日、この全員協議会の中では一部分のみの説明とさせていただきます。

それではお手元の資料に沿って説明させていただきます。

はじめに北海道新幹線並行在来線函館線における、将来需要予測・収支予測調査の精査についてでございます。

別添の資料1をご覧ください。

この資料1は、北海道新幹線の開業後、JR北海道から経営分離される在来線、函館・長万部間における新たな交通モード別の収支予測を精査し、現時点の内容をとりまとめたものでございます。

3ページをお開き願います。

このページ、左側の欄の交通モード別の収支予測等の見直しという表をご覧ください。

この表は、北海道新幹線の開業時期をこれまでと同じ2030年度と想定し作成されたものでございまして、この2030年度以降の新たな交通モード導入後の収支予測を記したものであります。

現在、検討されている交通モードは3方式ございまして、上から順に①の薄ピンク色の欄は鉄道を使用する第三セクター鉄道方式、次に②の水色の欄は鉄道を使用しないバス運行方式、そして③の黄色の欄は、運行区間を分けて、①と②の方式を組み合わせた、第三セクター鉄道＋バス運行の混合方式となっております。

そして、このたび精査されました、これら3つの交通モードの収支予測額については、黒い太文字で2回目精査と記載されている段の数値でございます。

まず、①の第三セクター鉄道方式をとった場合は、資産取得や会社立ち上げ等に係る初期投資として、288.6億円の経費がかかり、また、単年度収支では開業当初の2030年度は、12億円の赤字、10年後の2040年度には、14.4億円の赤字見込みとなっており、開業後30年の累計としては、744.4億円の赤字見込みの試算となっております。

次に②のバス運行方式の場合は、資産取得や会社立ち上げ等に係る初期投資で、30.9億円の経費がかかり、単年度収支では開業当初の2030年度は、0.9億円の赤字、10年後の2040年度では、1.4億の赤字となり、開業後30年の累計は、106億円の赤字見込みの試算となっております。

最後に③の第三セクター鉄道とバス運行の混合方式の場合は、初期投資が147.4億円、単年度収支で2030年度は、4.9億円の赤字、10年後の2040年度は、7億円の赤字で、30年間の累計は、391.6億円の赤字見込みの試算となっております。

このように、いずれの収支予測も多額の赤字が生じる試算となっておりますが、現時点では、②の全区間バス運行方式とした場合が最も経費がかからないことがわかります。

続いて資料2に移らせていただきます。

この資料2については、先ほどの一番赤字額の少なかったバス運行方式をとった場合のルート設定やダイヤ設定の考え方について記載しております。

1ページ目をお願いします。

中段、水色部分の内容は、これまで考えられてきた設定方法で、この考え方については単純に現行のJR運行区間をそのままバスルートとして移行設定したものであり、運行する区間数については記載の①～⑨までの9通りとなっております。

また、この右側に記載しているバスダイヤ運行本数につきましても、現在のJR利用状況等から導き出した本数となっております。

続いて、現在の考え方についてですが、現在は下段の黄色部分の内容で検討していくこととしておりまして、記載のとおり、今後は地域の意向を踏まえながら、①から⑤の5通りの運行ルートの検討が進められ、また、運行本数も当初よりも大幅に圧縮させる方向で検討していくこととなっております。

続いて2ページ目に移ります。

このページには上段に、バスルート設定の基本的な考え方、そして下段にはバスダイヤ設定の基本的な考え方が記載されております。

これら設定にあたっては、記載のとおり、それぞれ大枠で(1)から(3)までの3つの方向性を目指して検討が進められていくこととなっておりますが、基本的には現在走っているJRやバスの運行状況、そして、これらを利用する利用者の実態など踏まえつつ、利便性や効率化が図られるよう検討されていくこととなっております。

続いて4ページをお願いします。

ここでは、バス転換の検討にあたっての基本的な考え方を図で表しております。

上段から、検討①として、JRと並行する路線バスの乗車人員などを考慮のうえ、既存の路線バスへの乗客・旅客転移を見込んだうえで、路線バスの新增設を検討することとしております。

次に検討②として、函館・森間、函館・鹿部間を直通運行としたほうが良いのか、それとも、鉄道やバスの発着の多い新函館北斗駅を拠点とした乗換え運行としたほうが良いのかを検討していくこととしております。

検討③については、非常に長いルート区間になる箇所も想定されることから、その場合には高速道路を活用した速達性の高いバスルートも検討することとしております。

最後に5ページ目は、先ほども説明した、今後の地域の意向を踏まえた5通りのバス運行ルートの案を描いたものとなっておりますので、ご参考にしていただければと思います。

以上、簡単ではございますが、ブロック会議資料のご説明となります。

○議長（千葉 隆君） それでは今、並行在来線の関係で報告がございましたが、議員の皆様から質疑等ございますか。

なければ次の（２）の今後における取り組みについてご報告願います。

○政策推進課長（川口拓也君） 議長、政策推進課長。

○議長（千葉 隆君） 政策推進課長。

○政策推進課長（川口拓也君） 続いて、報告事項の今後の取り組みについてご報告させていただきます。

まずアの渡島ブロック会議の今後の状況であります。まず渡島ブロック会議については、今後、北海道新幹線、新函館北斗・札幌間の開業５年前までに、ＪＲ北海道から経営分離される函館・長万部間のいわゆる海線の代替え輸送方法の方向性を決定することとしてございます。

なお、ご承知かとは思いますが、後志地域の市町で構成するブロック会議においては、長万部・小樽間のいわゆる山線の代替え輸送手段をバス転換にする方向で決定しているところです。

続いて、イの町民の意見集約については、記載のとおり、八雲町としての考えを一定程度まとめるためにも、町民、特に普通列車利用者の声を聴く必要があると考えておきまして、対象地区については現在検討中でございますが、令和６年度中には意見集約をしていきたいと考えているところです。

最後にウの今後の渡島ブロック会議の動きについては、前回の会議で北海道から運転手不足などを念頭に、まずは函館バスとの早期、協議が必要であるとの提案が出されておきまして、これに対し各市町からも異論が出なかったことから、今後は函館バスとの協議内容等も踏まえた議論が始まっていくものと考えております。

そして八雲町としては、先ほど申し上げました町民から集約した意見を踏まえながら、渡島ブロック会議の中で他の市町と議論を深め、そして、最終的には渡島ブロック会議の中で全体として、この海線の代替輸送手段を、２０２５年度までに判断していきたいと考えているところでございます。

以上、簡単ですが報告を終わります。

○議長（千葉 隆君） 課長、町民との意見の聴取の仕方は具体的に考えているのであれば。

○政策推進課長（川口拓也君） 議長、政策推進課長。

○議長（千葉 隆君） 政策推進課長。

○政策推進課長（川口拓也君） この部分、町長の提案だったんですが、正直なところ区域とか考えたんですが、やっぱり一番が私どもで想定しているのは、学生さんが通勤で利用されているのが多いので、まずそういう通勤されている学生さんをターゲットに、学校サイドにお願いしながら意見集約をしていく。

あと、やはり状況を見ながら通勤・通学に使われている場合もございますので、そういった方々の多い地域をターゲットにいろんな方向で聴き取りをしていくかなということぐらいしか、まだ想定していません。

○議長（千葉 隆君） それでは議員の皆さんから質疑があれば受けてまいりたいと思います。

○議員（三澤公雄君） はい。

○議長（千葉 隆君） 三澤君。

○議員（三澤公雄君） バス運行というときに、運行してもらうのは函館バスということしか考えはないのかな。

○政策推進課長（川口拓也君） 議長、政策推進課長。

○議長（千葉 隆君） 政策推進課長。

○政策推進課長（川口拓也君） 現行でこの部分動いているのが北海道なんですけど、やはり函バスさんだけで考えている方向で見えております。

○議員（三澤公雄君） はい。

○議長（千葉 隆君） 三澤さん。

○議員（三澤公雄君） 僕の勝手なイメージだけど、函バスって、運行されてるほうが自治体からいろいろな補助金をもらって、あまり経営努力の足りない、サービスの足りないバス会社ってイメージがあるんですけど、運転手不足というのもあるし、バス路線が欲しい自治体の中でほかの公共交通がやっている会社さんと運転手の乗り換えも含めて、何か違う提案もされないと、函館バス、真剣に考えていけないのかなと思ったりもするんですけども、どうなんだろう。

○政策推進課長（川口拓也君） 議長、政策推進課長。

○議長（千葉 隆君） 政策推進課長。

○政策推進課長（川口拓也君） 議員から見られた函館バスさんの運営状況とかあると思うんですけど、我々から見ますと、非常に運転手不足の中ですって、苦しい中でもいろいろ頑張っているというのとは見えまして、現に従業員も200人ちょっといるんですけど、その中の事務方、そういう方々も免許を取って実際に運転手がないところに行ってますね、運転で対応しているとか、当然、この函館・長万部間の当然、長いルートで基本的には赤字が出るルートになると思いますが、そういった部分も函館市街地の売り上げをもって、とりあえずそこを穴埋めしていくかたちで企業努力は相当されていると思います。

ただ渡島ブロック会議は八雲町だけの意見ではないので、いろいろな意見を出し合って最終的に道がまとめていきますが、現状は函館バスの運行ということで進められて、この部分はうちの町長が出る会議で、そういった部分いろいろな意見を集約しながら、ほかの運行方式も含めて提案はしていきたいと考えております。

○議員（佐藤智子君） はい。

○議長（千葉 隆君） 佐藤さん。

○議員（佐藤智子君） このブロック会議の様子が道新で一面だけではなくて、2か所に分かれて載って、岩村町長が観光でも活用できるのではないかということ、しっかりと発言しているのは両方の面に載っていたので、そういう発言をしっかりとされているということで、大事な会議だったと思うんですけど、焦点は道で集約するということですが、関係市町で国に対してはどうするかという、そういう発言はなかったのでしょうか。そういう相談は今後できるとかいうのではないのでしょうか。

○町長（岩村克詔君） はい。

○議長（千葉 隆君） 町長。

○町長（岩村克詔君） これ国、道に対して補助だとか維持費のそういう手当とか、これからの話だと思います。ただ我々1町だけではなくて、北海道も交えた中で決まっていくと考えております。

ただ単純に考えると、バスのほうが我々自治体の負担が少ないんですが、そうばかりではないことは私は認識していますので、それを十分にこのブロック会議で話をしながら、ただ2030年、5年前には決定していかないと次の段階にいけないということがあるので、先ほど、これから高校生や中学生、さらには落部だとか野田生とか普通列車を使っている、黒岩ですね、その辺の住民の人達の意見を聞きながら、ある程度方向性を付けていくということで、もし議員の皆さんもある程度そういう話を聞いたときには我々に情報をいただけたら、またブロック会議に持って行きたいと思いますので、よろしく願いいたします。

○議長（千葉 隆君） ほかにございませんか。

○議員（斎藤 實君） 一つだけ。

○議長（千葉 隆君） 斎藤さん。

○議員（斎藤 實君） ちょっと確認したいんですけども、鉄道とバスの関係これ数字的に見ると鉄道のほうが相当厳しいねということで、今の協議会の中ではバスの方向性で決まっているのでしょうか。

○町長（岩村克詔君） はい。

○議長（千葉 隆君） 町長。

○町長（岩村克詔君） やっぱりその各自治体の負担金が多いということで、先ほど佐藤議員さんから話あったとおり、八雲町も同じですが、お金をあまり負担をかけると財政が大変になるということで、是非、国や道に、もし鉄道を動かすにしても負担を多くして、軽減しながら進められるかどうかであります。ただ皆さんご存知のとおり、2050年に人口が減っていくという、いろんなことを皆さんと、ただどこの町も負担金は少ない、多くないほうがいいのはみんな一致していますが、バスや鉄道はまだ決定はしていないということでご理解いただきたいと思います。

○議員（三澤公雄君） はい。

○議長（千葉 隆君） 三澤さん。

○議員（三澤公雄君） 鉄道の赤字大きくなってのけれども、やっぱり車両の確保だとか、そういったところの数字の積み上げ方ってどういうふうになっているのかな。JRだって使わなくなる車両だとかがあるでしょ、その金額だとかも。

○新幹線・公共交通係長（長谷川佳洋君） 議長、新幹線・公共交通係長。

○議長（千葉 隆君） 新幹線公共交通係長。

○新幹線・公共交通係長（長谷川佳洋君） こちらですね、年々金額が高くなっていく理由としては線路の保持維持する金額も年々、年が経ってくると補修等も必要になってくるので、初期投資はもちろん車両の問題もあるんですが、鉄道の保守関係、維持関係、あと人件費等も含めて、そういった中で金額が多くなっていくものと理解しております。

○議員（三澤公雄君） はい。

○議長（千葉 隆君） 三澤さん。

○議員（三澤公雄君） 保守・維持関係だったら圧倒的に通る車両の重量からいって貨物会社のほうが負担するべき金額なんじゃないかな。過疎線の人口も考えたら。

○町長（岩村克詔君） 議長。

○議長（千葉 隆君） 町長。

○町長（岩村克詔君） 三澤議員ですね、もっともそのとおりなんです、JR貨物も今のところ決定はしていないということで、今ですね、国、道とJR貨物とJR北海道とですね、この貨物列車を動かす動かないの決定をする予定でいます。その中で線路の維持をどうするのかという問題を、そちらのほうで話されるということで、我々はあまりそれに口を出していくと、お金を出せという話になりますので、その辺はJR貨物のほうと北海道や国になるべくお任せしたいと考えているのは我々自治体の首長の考え方です。

○議員（三澤公雄君） はい。

○議長（千葉 隆君） 三澤さん。

○議員（三澤公雄君） そしたらその線路の維持費用を除いた部分での負担額っていうのが初期投資の中ではどれくらいになっているの。

○政策推進課長（川口拓也君） 道のほうで試算しているの。

○町長（岩村克詔君） 議長。

○議長（千葉 隆君） 町長。

○町長（岩村克詔君） あのですね、私も町長になってブロック会議に、今回1年半くらいかかりましたが、何回も言って、言って莫大な変な数字が出てきてまた言って、やっとこのような数字が出てきたということでありますので、北海道の話聞いてみても、JR北海道が数字的なものをあまり出せないという事情もあって、やっとここまで来たということをご理解いただきたいと思えます。

○議員（三澤公雄君） 不透明なことね。わかりました。

○議長（千葉 隆君） ほかにございませんか。よろしいですか。

なければ直接、在来線の関係ではないんですが、その他ということで聞いてほしいのですが、八雲町の過疎地域持続的発展市町村計画というのが令和3年度から令和7年度までの基本計画がありますが、その15ページに移住・定住地域間交流の促進人材育成って項目があるんです。その中の（4）に公共施設と総合管理計画等の整合ということで、この基本計画によれば移住定住地域間交流の促進、人材育成に係る公共施設等はなく、今後も施設整備の予定はありませんというのが現在の八雲町の基本計画になってるんです。

それで今、総務常任委員会で実施計画出てきていますので、その辺の整合性の整理だけお願いしたいなど。このままではないよという、今後も整備しませんっていう展開ですので、総務経済の実施計画にも影響しますし、地域交流の関係、あるいは過疎の問題は八雲町全体の問題だということでちょっと検討をお願いしたいと思います。

○町長（岩村克詔君） 議長。

○議長（千葉 隆君） 町長。

○町長（岩村克詔君） 議長さんの言っているとおりだと思いますし、検討しないというのはあまりだと思います。本当に検討していくとか実際にやっついていかないと過疎がどんどんすすむということですので、十分持ち帰って検討させていただきたいと思えますのでよろしく願いいたします。

○議長（千葉 隆君） ほかに。

○町長（岩村克詔君） 議長。

○議長（千葉 隆君） 町長。

○町長（岩村克詔君） ほかにですね、今皆さんご存知のとおりですね、能登半島地震で大変被災しているということで、医療チームもやっと昨日帰ってきて来ました。さらにこれから避難の人達が、議長さんのお話にありましたが避難の人の受け入れということで、我々ウクライナの避難民を受け入れられる棟があるので、その辺、手を挙げさせていただいて、ただそれについては今のところ整備できているのは5か所分なので、ただなかなか津軽海峡渡って北海道になかなか来ないんじゃないかって話がありますが、もしも我々手を挙げたので、その辺の費用がまたかかる前にまた緊急臨時会や専決で対応していきたいと思っています。

さらに今、保健師とか職員の派遣ということも北海道でまとめていますので、その辺は我々八雲町としては能登半島地震には全力的に協力していきたいということですので、議員の皆さんもそのように感じながら多少ちょっと職員がいないというときもありますし、先ほど言った本当に費用が足りないときは専決や臨時議会でお願いますので、よろしくお願いたします。以上です。

○議長（千葉 隆君） 今、震災の関係で町長からお話がありましたが、この関係について皆さんのほうから。なければこれで終わりたいと思います。

○町長（岩村克詔君） もう一点だけ。

○議長（千葉 隆君） 町長。

○町長（岩村克詔君） 皆さん新聞で見たとと思いますが、線路を横断はやっと地震津波のときに線路を横断にはJRは認めると。今までは認めていなかったのが認めるということで、これを我々その自治体、渡島町村会でも話をしながら、各地域に入りながらこの決定していく、私たちはどこでも逃げていいんじゃないかということですが、JR北海道は否定しなさいというのも書いていますので地域の要望を聞きながら、また1町で交渉に行ってもしょうがないので、渡島町村会とまとめて交渉に行きたいということですので、よろしくお願いたします。

○議長（千葉 隆君） このことについても何かありましたら。

なければ今日はそのほかもないということですので、それではご苦労様です。これで終わります。

[閉会 午前 11時06分]